

八尾歴史物語

四一巻

指定文化財シリーズ〈史跡〉その①〈古墳編〉

八尾市には、国・府・市指定の文化財が96件、登録有形文化財の建造物が20棟あります（平成29年4月現在）。今回は指定された文化財のうち、古墳についてご紹介します。

古墳時代は大きく前期・中期・後期に区分されますが、前期に造られたものに萱振1号墳（府指定）があります。1辺が27メートルの方墳で、家形や軀（矢を入れて携行する武具）形など多くの形象埴輪が出土しており、府立八尾北高校内に復元整備されています。

古墳時代中期では、全長160メートルで中河内最大の前方後円墳である心合寺山古墳（国指定）があります。現在は、造られた当時の墳丘や葺石、埴輪などが復元され、古墳の上まで見学できるようになっているほか、隣接するしおんじやま古墳学習館では八尾の古墳について学ぶことができます。

古墳時代後期では、高安山山ろくに広く分布する高安古墳群

があり、現在確認できるもので300基以上もの古墳が存在します。その中でも200基以上の古墳が服部川から郡川にかけて集中して残っており、「高安千塚古墳群」として国史跡に指定されています。古墳群で最も大きい全長約13メートルの横穴式

石室を持つ開山塚古墳（国指定）や、全国でも類例のない縦に二つつなげた構造の石室を持つ二室塚古墳（市指定）など、見所も多く残っています。



二室塚古墳の石室

このほか後期に造られた古墳として、心合寺山古墳付近に、石室長15・7メートルと府内最大級の横穴式石室を持つ円墳の愛宕塚古墳（府指定）や、直径約27メートルの円墳・鏡塚古墳（府指定）があります。

☆問合せ 文化財課

☎ 924・8555

FAX 924・5593